

学校法人 東京滋慶学園 新東京歯科衛生士学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2020年6月30日実施】

2019年度自己点検自己評価(2019年4月1日～2020年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 育成人材像 目的教育理念	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3		学園・学校ともに中長期的な計画を定め、その上で今年1年は何を課題に取り組むかが明示されている。その計画を実現させるためにも、継続的な入学定員の充足が重要。	理念・目的・育成人材像を明確に定めており、各会議、研修等で広く周知を図っている。 また業界ニーズの変化をいち早く吸い上げ、それに応えるカリキュラムの構築も行なっている。 養成目的:卒業後およそ3年(または業界から求められる人材像)の姿 教育目標:卒業時の到達像	3.0	法人として学校としての教育理念が明示され、実学教育で育て上げた卒業生の社会ニーズの変化を捉えながら人材の育成を図っています。 求められる人材像という目的が明文化されている点が素晴らしいと思います。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか						
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか						
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか						
2 学校運営	2-2 運営方針は定められているか	3		事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして共感を得ることに力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・部署別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りを行うためである。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に社会のニーズに対応した事業計画・運営方針を定め、実行を徹底していく。 法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。 明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。	事業計画の構成 ①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的) ②運営方針(中期的に組織として目指していく方針) 事業計画の構成 ①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的) ②運営方針(中期的に組織として目指していく方針) ③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針) ④定量目標(受験者、教育成果(中途退学防止、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等) ⑤定性目標(人材育成や組織あり方等定性的な目標についての単年度目標) ⑥実行計画(その方針を実現するための詳細な計画) ⑦組織図(単年度) ⑧職務分掌 ⑨部署ごとの計画及びスケジュール ⑩附帯事業計画 ⑪職員の業績評価システム ⑫意思決定システム ⑬収支予算書(5か年計画)	3.0	法人としての滋慶学園の運営は、法人理事会評議会で意思の決定がなされ、具体的な運営方針は学校戦略会議・運営会議・全体会議さらに学科会議やグループ会議などで意思の確認と効率化が図られています。同時に人事案件と賞金の処遇においても、教職員に根拠を説明する制度も確立して公正さが保たれています。 さらに5年毎に見直される五か年計画では、市場調査によって得られた資料を基に計画の確認と周知徹底の確認をするなどのシステムは、学校運営の効率化と改善さらに教育効果が期待できますので大いに評価できます。 事業計画の構成が素晴らしいのと、数字だけでは評価できない業務もプロセス評価をするという仕組みの導入がよいと思います。
	2-3 事業計画は定められているか	3	「次年度の事業・収支計画は、既に今年作る次年度の報告書であり決算書である」という考えのもと、本学園の事業計画は作成されている。具体的には過去から現在に至る数字を考察し、また1年後、3年後または5年後には社会がどのように変化しているか市場調査を行い、作成をしている。	年度初めのスタート研修から事業計画を全員で共有している。運営会議・全体会で計画遂行の確認をとり実行している。今後は問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを徹底していきたい。			
	2-4-1 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3	事業計画・運営方針を定めることを最も重要視し、毎年事業計画・運営方針を定めるとともに、5年後と5か年を見通した5か年計画も作成遂行している。 明文化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底することを年間通じて力を入れている。そのためにも各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・部署別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に業界ニーズ・学生ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。	学校運営をマネジメントシステムの計画と実行として捉え、マネジメントスキル、知識、そしてリーダーとしての研修を重視している。マネージャーは組織運営者であることを念頭に人材育成の一環として運営を行っている。事業計画を教職員が自立的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。計画遂行の確認のため、問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを徹底していきたい。			
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか						
2-5 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3	採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。 また、その後の教職員の育成には、OJT制度をはじめ職階に応じた研修を整備している。そして、全教職員は目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。	数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務(例えば、入学式・卒業式担当、行事担当、学生挨拶推進担当、清掃運動担当など)も過程を評価できるようプロセス評価を導入している。 また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。				

学校法人 東京滋慶学園 新東京歯科衛生士学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2020年6月30日実施】

2019年度自己点検自己評価(2019年4月1日～2020年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
2 学校運営	2-6 意思決定システムは確立されているか	3	各会議は、会議の位置づけ、会議日の告知、会議の進行の仕方を、事業計画においても明確化している。重要なことは、学校運営が滞りなく行われることである。学校運営で生じる様々な問題を早期に発見し、解決案を立て、実行することである。迅速な意思決定ができるシステムになっている。また、会議の進め方、結果の取り扱いを重視している。常に『何のため』を意識して会議を実施しており、議論に必要となる資料は、担当者が事前にデータ分析などを行い、準備している。また、会議で決定されたことは次の会議で進捗状況を振り返ることで、漏れや遅滞を出さないよう工夫している。	会議の構成は以下の通り。 1. 法人理事会・評議員会 : 最高決議機関 2. 学校戦略会議 : 運営方針の起案会議 3. 法人運営会議 : 運営方針の問題を発見・対策立て会議 4. 学校運営会議 : 学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議 5. 学校全体会議 : 決定事項の周知 6. 学校学科会議・部署会議 : 部署の問題解決会議 7. グループ各委員会会議(広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・広告倫理委員会・個人情報保護委員会・学科別教育研究委員会・災害対策委員会・カウンセリング委員会・オリエンテーション委員会) 8. 様々なプロジェクトの会議	2の続き	
	2-7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	専門学校基幹業務システム(IBM社製 i 5(アイファイブ)上に構築)により管理している。 管理項目は以下の通り。 ①学簿管理 ②時間割管理 ③成績・出席管理 ④学費管理 ⑤入学希望者及び入学者管理 ⑥各種証明書管理 ⑦求人企業管理 ⑧就職管理 ⑨卒業生管理 ⑩学校会計システム ⑪人事・給与システム ⑫ファームバンクシステム ⑬研修旅行管理システム ⑭寮管理システム ⑮健康管理システム 等により構築されている。	特に広報、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にプレがないようにシステム構築をしている。そのことが、学生募集、退学防止、就職支援へとつながっている。		
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられている。	人材ニーズの変化や業界そのものの変化に伴う学科の養成目的/教育目的の見直しやカリキュラムの再構築のために、学科長を置いている。学科長は教育力(1. 計画:カリキュラム 2. 運営:授業 3. 評価:試験フィードバック)向上のための教育改革項目について分析し、改革案を作り、改革実施を評価し、修正提言をする役割を担う。	3.0	学生の育成目標を達成するために、その分野のスペシャリストを講師に迎えるなど教育の質を高めるために、教える側の質の充実を優先的に考えていること。さらに授業の充実と改善点を洗い出すために、授業アンケート・オープン授業を展開して、その得た情報でさらに授業の改善が行われていることは高い評価ができます。 卒業時の国家試験の全員合格を目指しながら、不合格者に対して次の試験に備える無料支援体制は高く評価できます。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか		各学科の教育目標、育成人材像は、常に業界のニーズを反映させるため、業界調査、学科調査、競合校調査を毎年秋季に行い、そこで現れる業界ニーズに確実に応えられる教育目標、育成人材像を設定している。			
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	キャリア教育にはいち早く取り組んでおり、入学前・在学中・卒業後と3つの時期を捉えて展開していることがポイントである。キャリア教育の機会には講義形式で知識を付与するものではなく、実践的な体験の中で養成されるべきものと考えている。	授業アンケート、オープン授業を参考に教務部長、学部長、学科長から講師へ面談を行い、授業の問題点に対する課題提案をし、授業改善につなげている。また、定期開催される講師会議を通して、成功事例の共有化も図っている。		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか		授業アンケートと、オープン授業を通して、授業評価を実施している。			
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか		授業評価の視点として、受ける学生の視点と、行う講師の視点の2つを重視している。			
	3-9-4 授業評価を実施しているか		授業アンケートによって学生からの、オープン授業によって講師からの授業評価を行っている。			
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	成績評価及び単位認定の基準は明確に定めている。	授業履修時間も含めて、基準の遵守は徹底している。 卒業・進級判定会議を開催し学校長の承認を経ている。		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	入学者の全員が100%歯科衛生士国家試験の合格ができるように、対策を立てて取り組んでいる。また、仮に不合格となってしまった場合には、卒業後も合格まで無料支援する体制をとっている。	個別学習対策については学修習熟度のほか、個人にあった学習方法を模索している。また、卒業生講師を活用している。 今年度の国家試験全国合格率が94.3%。 157名が受験し152名合格、5名不合格(合格率96.8%)であった。			
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか						
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	学科の育成目標を達成するために、講師がその分野のスペシャリストであること、また、同時に講師要件を満たしていることを講師採用において重点を置いている。	OJT研修を通じて個々の成長段階に合わせて業務内容を精査していく。			
3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか		採用決定の講師は、講師会議を通して、授業運営に対する情報の共有化、成功事例の共有、また、学園の理念、希望する方向性、養成したい学生像を共有し、問題・情報の共有、解決につなげている。				
3-12-3 教員の組織体制を整備している						
4 教育成果	4-13 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	キャリアセンターの目標は、「入学した全学生を第一専門職の職種で就職させること」である。入学の目的を達成するための支援が必要であり、そのためには数字を基に現状を把握、問題を分析し、対策立案、実行のサイクルをまわすことが重要。そのための取り組みを徹底している。	キャリアセンターの活動は、入学前の学生への対応から始まり、仕事イメージを持って入学できるようにしている。また在校生へは、面接時におけるスキルアップ指導や、筆記試験対策の実施、業界模擬面接や、学内企業説明会、見学指導を通して、就職に対する意識を強めていく。 就職活動サポートブックという冊子を学内独自で作成している。	3.0	キャリアセンターの存在で、学生は専門職として就職をすることが目的だと知らされています。 そこから全員の国家試験合格を目指す教育が効果的に実行されています。
	4-14 資格取得率の向上が図られているか	3	100%国家試験合格に向けて、全ての取り組み、教育活動はできている。	国家試験対策も最終的には個別対策が必要となり、それは生活改善と関係し、学習支援は生活指導と直結する。学習習慣を身につけることが必要と考えている。また効果的学習方法が個々の学生によってちがうため個人にあった学習方法を学生とともに考えている。WEB上で勉強可能なシステムが構築されている。		
	4-15 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	同窓会組織を中心に卒業生の動向を把握している。同窓会に参加する卒業生を更に増やし、卒業生の最新の実態を把握する工夫や活動が必要といえる。	SNSを活用し、同窓会集客や卒業生の把握をしている。		

学校法人 東京滋慶学園 新東京歯科衛生士学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2020年6月30日実施】

2019年度自己点検自己評価(2019年4月1日～2020年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
5 学生支援	5-16 就職に関する体制は整備されているか	3		例年の求人状況や採用活動のスケジュールと、学生のモチベーション等を鑑み年間計画を立てている。 さらに2週間に1度の頻度で担任とキャリアセンターで学生の状況を共有し、就職活動状況の把握をしている。	キャリアセンターの情報更新、学生を支援する際に過去のデータを使用し相談、希望地域にふさわしい就職先の提示など、教員の業界知識の向上を図っている。	3.0		学生の国家試験全員合格100%を目指すと言っても、難関の高いハードルを目指すなければなりません。高い目標であればあるほど教える側も教えるを受ける学生にも悩み苦しみ、ときには目標を見失うこともあるのです。その時に専任のカウンセラーが常時対応する体制をとりつつ、全教職員が研修をうけてカウンセリングマインドを持った教職員の養成は高い評価だと思います。 また経済的な支援・留学生に対する支援も日本学生支援機構を利用した対応や、家庭の状況を判断して学費の分納制度は保護者にとっても有難い制度だと思います。
	5-17 退学率の低減が図られているか	3		退学軽減のための初年度教育、アクティブラーニングを取り入れ学生の主体性を育成しはじめた。また、学習意欲を向上させる為に、興味がある分野の知識・技術を深めることができるゼミ教育を導入した。	毎年数字目標を掲げ、教務部長や学科長を中心に学生支援に取り組んでいる。問題学生の分類や、モチベーションアップのための支援策や、システム整備のほかにも、担任の支援・育成のための研修プログラムも実施している。			
	5-18-1 学生相談に関する体制は整備されているか	3		専任カウンセラーを置き、いつでも対応できる状況を作っている。学校の全職員がカウンセリングの基本を学ぶ研修を受講しており、一定の対応ができるようになっている。 また、留学生の増加に伴い、留学生サポートも定期的にも実施している。	教職員全員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう研修会&カウンセリング資格制度を実施。特に、カウンセリング研修では学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESCカウンセラー資格」を全員に受講させ試験を実施することでカウンセリング技術の均一化を図る。 心理学/カウンセリング基礎知識習得を行うことで、学生相談室との連携が非常にスムーズにおこなえている。			
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか							
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3		学生の経済的側面の支援は、かなり高いレベルで出来ていると考えている。特に、FA(フィナンシャル・アドバイザー)による学費相談会の実施によって、事前に学費相談を受けられ、資金のやり取りをアドバイスできている。専任スタッフを置き、いつでも対応できる状況を作っている。学校の全職員がカウンセリングの基本を学ぶ研修を受講しており、ある程度の対応はできるようにしている。教職員とカウンセラーの連携のスピードと質が鍵となる。	教職員全員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう研修会&カウンセリング資格制度を実施。特に、カウンセリング研修は全2回あり研修後の筆記試験に合格することで、学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESCカウンセラー資格」を得ることができる。合格することでカウンセリング技術の均一化を図る。 心理学/カウンセリング基礎知識習得を行うことで、学生相談室との連携が非常にスムーズにしている。			
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか							
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか							
	5-19-4 課外活動に対する支援体制は整備されているか							
5-20 保護者との連携体制を構築しているか	3		学生の問題解決のためには、保護者との連携は欠かせない。 成績不良、出席率の低下などが見られた場合には、すぐに保護者への連絡や単位取得状況の手紙を郵送し、情報を共有している。	入学前に保護者会を開催し、保護者との連携が必要であることを告知。学校と保護者の両面から学生一人ひとりを支援していく事を伝えている。				
5-21-1 卒業生への支援体制はあるか	3		卒業生の活躍は、「業界の信頼」「高校の信頼」獲得に繋がり、本校の教育理念が実現されたことに対する評価である。学園としても離職率ゼロを目指しており、卒業生への支援は重要である。	入学生年齢層は幅広くなっている。非正規社員を経験してきた学生も多い。卒業後正社員で安定的に働きたいと希望している学生が多い。 Wライセンスを取得できる学習環境が整っている。				
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか								
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか								
6 教育環境	6-22 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3		最新の設備での教育環境が整っている	特になし	3.0	学生の国家試験全員合格100%を目指すと言っても、難関の高いハードルを目指すなければなりません。高い目標であればあるほど教える側も教えるを受ける学生にも悩み苦しみ、ときには目標を見失うこともあるのです。その時に専任のカウンセラーが常時対応する体制をとりつつ、全教職員が研修をうけてカウンセリングマインドを持った教職員の養成は高い評価だと思います。 また経済的な支援・留学生に対する支援も日本学生支援機構を利用した対応や、家庭の状況を判断して学費の分納制度は保護者にとっても有難い制度だと思います。 防災に関しては昼間部と夜間部が併設されていますが、それぞれの時間帯を考慮した避難訓練や職員研修が実施されていますので高い評価だと思います。	
	6-23 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3		学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。	7つの現場実習による実学教育をおこなっている。 ①歯科医院 ②大学病院 ③高齢者施設 ④障がい者施設 ⑤保健所・保健センター⑥小学校 ⑦幼稚園 2019年度海外研修実績(ハワイホノルル) 6月10日～6月16日7名参加。			
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3		実際の災害で対応できるように、マニュアルを整備している。災害時の対応を映像にまとめ、新任講師にも必ず研修を行っている。 昼間部と夜間部それぞれの時間帯を想定して訓練を実施、また職員には訓練開始まで役割を知らせずに行うなど、常に実際の災害を想定した訓練を行っている。	「非常用キッド」を全学生数分+α備えており、万が一の場合の3日間分の食料、水、防寒への対策を立てている。			
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか							

学校法人 東京滋慶学園 新東京歯科衛生士学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2020年6月30日実施】

2019年度自己点検自己評価(2019年4月1日～2020年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	広報活動は入学前教育という位置づけにしており、受験生の①職業適性の発見・開発②目的意識の開発の支援をしていく重要なプログラムであるという考えである。入学事務局、教務部、キャリアセンター、学生サービスセンターが一体になり広報活動にあたっている。 滋慶学園広報倫理規定グループの理念に基づいた募集開始時期、募集内容(推薦入試による受け入れ人数等)を遵守している。	ガイダンス業者と契約し、高等学校や日本語学校における進学説明会への参加を積極的に行っている。 また、入学希望者向け入学案内とは別に高校教員・保護者向けの学校案内を作成し、教育理念やサポート体制についての説明を行っている。 そして、早期出願者に対し、出願時のモチベーションを入学時まで維持できるよう「プレレレッジ(入学前教育)」を実施している。	3.0	まず専門的な知識と確実な技術・判断力や感性が求められる学校です。さらに卒業時には国家試験の合格率が大きく公表され、それが学校の評判や評価にも繋がりますから慎重な募集が求められます。学力が低く意識レベルも低ければ授業にも支障がでて、補習授業や時には途中退者の増加にもなりますので、学校の教職員の方の努力と成果に大いなる評価をしたいと思います。 さらに各高等学校で行われる進路ガイダンスにも、ガイダンス業者を通して積極的な募集をしていますが、同系の専門学校の乱立と高校卒業生の数の減少、さらにコロナウイルスの影響で経済的に困窮する家庭の増加が懸念されますから、各高校に小まめに足を運ぶ・文化祭での参加を打診してみる等の姿勢も必要かと思えます。 入学の選考や情報は公正に行われ、その情報も公開されていますので、送り出す側としても安心感があります。
	7-25-2 学生募集活動は、適正に行われているか					
	7-26-1 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3	「目的意識と適性」という選考ポイントのもと、説明会参加時の様子や面談でも受験生を把握している。その上で、面接・適性試験・書類選考で総合的に判定を行っており、適正かつ公平に行われている。	滋慶学園グループ広報倫理規定に基づき運営している。目指す仕事に対する「目的意識」と「適性」(「欠格事由」についても確認している。)を基準としている。 入学者の事前データを基にクラス編成の参考にし、学生指導に活用している。		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	学納金は学科の教育目標達成(卒業時の到達目標)を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費(講師・教職員)、実習費、施設管理・運営費等に当てられている。諸経費に関しては、毎年教材及び講師の見直しを行っており、無駄な支出をチェックしている。その上で金額の見直しを実施するようにしている。	募集要項上において、必要額を総額で明示しているため、年間支出計画を立てやすいよう示している。 また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたったのアドバイスを実施している。		
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか						
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	5年を見越した中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするためにより現実に即した予算編成になっているものと考え。学校の財務体制を管理し、健全な学校運営ができるように予算・収支計画は有効かつ妥当な手段として利用されている。	以下のチェック機能がある。 事業計画(財務計画・収支予算書) 1. 学園本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 2. 四半期ごとの学園本部によるチェック 3. 修正予算の作成: 学園本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 4. 計算書類の作成と学園本部によるチェック 5. 監事および公認会計士による監査 6. 決算書類、事業報告書の理事会・評議員会による承認 内部監査を設置し、第三者視点で厳しくみている。	3.0	学校法人として東京滋慶学園そして関係する学校の経営・運営は法人理事会・評議員会で多くの貴重な意見とデータを基に計画がなされ、さらに実行する場合には5か年計画を立て、途中の変更や改善もされていますので財務体制は強固だと思えます。 また実施にあたり私立学校法や寄付行為に基づき財務管理を行い、予算を決め四半期の予算と対比し、さらに修正を加えた決算体制は高く評価できます。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	収支計画は各学科の入学者数目標と予測、在籍者目標と予測から綿密な計画を立てている。学校、学科を取り巻く環境を常に考慮し、単年度ごとには見直し、健全な学校運営・学科運営が出来るよう努力している。収支計画(予算)は5年間作成され、そのうち次期1年間の予算については具体的に作成する。	当初予算→四半期予算実績対比→修正予算→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	8-30 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。	現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考え。 監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。		
8-31 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	学校内部としては「財務情報公開規程」を作成し、財務情報の公開にあたって必要最低限の項目を定め、具体的な事項については「情報公開マニュアル」を作成して、対応にあたっている。	「財務情報公開規程」では、目的、管理、公開対象書類、閲覧場所・時間、閲覧申請方法等を規定している。すなわち、情報公開に必要な最低限の事項を定めている			

学校法人 東京滋慶学園 新東京歯科衛生士学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2020年6月30日実施】

2019年度自己点検自己評価(2019年4月1日～2020年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
9 法令等の遵守	9-32 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りはできている。また教職員への啓発として、法令や設置基準の遵守に対する教育または研修を実施している。	(1)組織体制 ①財務情報公開組織体制(あり) ②個人情報管理組織体制(あり) ③地球温暖化防止委員会 ④進路変更委員会 (2)システム ①個人情報管理システム ②建物安全管理システム ③品購入棚卸システム ④コンピュータ管理システム	3.0	学校教育法ならびに専修学校設置基準法などを厳守しての学校運営が行われています。 また学校関係者評価委員の評価内容を公表し、さらに改善すべき点は改善する体制が整っています。 また学校関係者が評価する前には、教職員が学校運営や授業の進め方・学生との対応など細かな点にまで厳しい自己評価を課して更なる向上を目指す姿勢も評価できます。
	9-33 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	全ての役員・教職員・講師が個人情報に関する法規を遵守し、個人情報保護に関する基本理念を実践するために「個人情報保護基本規程」を構築し、社会的要請の変化にも着目し、個人情報保護管理体制の継続的改善にも取り組んでいる。 学校という業務上、日々、大量の個人情報を扱っている。その管理においては外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新しホームページ上に明記している。また、教職員研修、学生の教育を徹底し、情報漏えいのないよう努めている。	主な事項は以下の通り。 ・適切な個人情報の収集、保管、使用、開示及び提供に関する事項。 ・保管している個人情報の保護・修正・変更に関する事項。 ・対外的な当校の個人情報取扱についての周知、問合せ・苦情受付に関する事項。 ・教職員への教育・研修、周知徹底に関する事項。 個人情報を取り扱う業務の外部委託先については、「選定チェック表」により審査をし、業務委託時には「業務委託契約書」に保護を明記させ「個人情報保護誓約書」を提示させている。 個人情報保護最高責任者資格(認定CPO資格)を取得した職員を配置している。		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	私立専門学校等評価研究機構の基準に準じて自己点検・自己評価を実施しており、結果をホームページ上で公表している。	毎年5月に定められた委員会により、学校全体で取り組んでいる。		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	私立専門学校等評価研究機構の基準に準じて自己点検・自己評価を実施しており、あわせて職業実践専門課程の基準に準じて教育内容についてもホームページ上で公表している。	特になし		
9-35 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	特になし	特になし			
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	地域清掃を毎週火曜日に教職員、学生で実施している。AEDを設置しており、緊急の際には地域の方にも使って頂ける用意がある。	大田区と災害時協力協定を締結した。 臨床実習先として訪問診療実施の実習先を増やしていく。	2.6	大学病院や老人施設・小学校や幼稚園・障害者施設での実務教育があるので、同じ場所でもまた違う場所でも「歯磨き・口の衛生・虫歯予防・虐待の早期発見」などのボランティア活動に期待します。 他の滋慶グループの学校と比較はできませんが「正しい歯磨き」とか「虫歯のお話」とかの出前授業での貢献は可能だと思います。
	10-37 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	歯科医師会主催の地域保健事業に参加し、口腔ケアに対する意識の向上に貢献している。	大田区と災害時協力協定を締結した。		
11 国際交流	11-38 国際交流に取り組んでいるか	2	毎年、学生の海外研修を実施し、国際交流に取り組んでいる。留学生の受入れを実施している。	2019年度海外研修実績(ハワイホノルル) 6月10日～6月16日7名参加。	2.4	アメリカ(ハワイ)での研修や留学生の積極的な受け入れなどは評価できます。海外留学制度を利用してアメリカに留学して見聞を広め、国際コンクールに学生を派遣するなど積極性が感じられます。